

表1 履修モデル

修士論文コース
看護学基盤分野(基礎看護学)

修士論文コース
看護学基盤分野(在宅看護学)

履修モデル			単位			
			1年		2年	
			前期	後期	前期	後期
履修科目	共通必修科目	看護理論	2			
		看護研究特論	2			
		看護倫理	2			
	共通選択科目	共通選択科目から	②			
		4科目8単位以上選択のこと		⑥		
	専門科目	基礎看護学特論Ⅰ (看護実践学の特質・看護の本質・対象)	2			
		基礎看護学特論Ⅱ (看護の諸活動と専門性、看護技術教育)	2			
		基礎看護学演習Ⅰ (看護の特質に関する文献検討)	2			
		基礎看護学演習Ⅱ (看護の諸活動・看護技術教育に関する文献検討)	2			
		特別研究Ⅰ	2			
特別研究Ⅱ				3		
特別研究Ⅲ					3	
計			24		6	
合計			30			

履修モデル			単位			
			1年		2年	
			前期	後期	前期	後期
履修科目	共通必修科目	看護理論	2			
		看護研究特論	2			
		看護倫理	2			
	共通選択科目	共通選択科目から	②			
		4科目8単位以上選択のこと		⑥		
	領域別専門科目	在宅看護学特論Ⅰ (在宅看護に関わる制度と在宅ケアシステム)	2			
		在宅看護学特論Ⅱ (訪問看護活動と専門性)	2			
		在宅看護学演習Ⅰ (在宅看護における文献検討)	2			
		在宅看護学演習Ⅱ (訪問看護における文献検討)	2			
		特別研究Ⅰ	2			
特別研究Ⅱ				3		
特別研究Ⅲ					3	
計			24		6	
合計			30			

修了後期待される能力

看護の対象を総合的に理解し、支援するための基盤となる理論や方法論に関し科学的に考究することにより、高い専門知識と技術を展開できる実践者となるための基盤や研究能力が育成される。
修了後は、臨地および教育研究機関において看護者の育成に携わるとともに実践的研究を行うことが期待される。

修了後期待される能力

在宅看護に関する高度な知識技術を有する実践者であるとともに在宅で療養する人々の健康を支援するため専門職種間の調整を行う能力や研究活動を行う能力が育成される。
修了後は臨地および教育研究機関において看護者の育成に携わるとともに実践的研究を行うことが期待される。

修士論文コース
看護学基盤分野(看護管理学)

修士論文コース
産業看護学分野(産業看護学)

履修モデル			単位			
			1年		2年	
			前期	後期	前期	後期
履修科目	共通必修科目	看護理論	2			
		看護研究特論	2			
		看護倫理	2			
	共通選択科目	看護管理学特論	2			
		コンサルテーション論	2			
		看護政策論	1			
		国際看護学特論	1			
		看護研究演習	2			
	領域別専門科目	看護管理学特論Ⅰ (経営管理論の系統と看護管理)	2			
		看護管理学特論Ⅱ (看護実践における管理機能)	2			
看護管理学演習Ⅰ (管理論に関する文献検討)		2				
看護管理学演習Ⅱ (看護管理に関する文献検討)		2				
特別研究Ⅰ		2				
特別研究Ⅱ			3			
特別研究Ⅲ				3		
計			24	6		
合計			30			

履修モデル			単位			
			1年		2年	
			前期	後期	前期	後期
履修科目	共通必修科目	看護理論	2			
		看護研究特論	2			
		看護倫理	2			
	共通選択科目	看護管理学特論	2			
		コンサルテーション論	2			
		看護研究演習	2			
		総合英語演習	2			
	領域別専門科目	産業看護学特論Ⅰ (産業看護概論)	2			
		産業看護学特論Ⅱ (労働経済序論)	2			
		産業看護学演習Ⅰ (産業保健基礎科学)	2			
産業看護学演習Ⅱ (産業看護技術論)		2				
特別研究Ⅰ		2				
特別研究Ⅱ			3			
特別研究Ⅲ			3			
計			24	6		
合計			30			

修了後期待される能力

看護管理の基盤となる組織や経営管理の理論的探究を通して、質の高い看護を提供するための看護管理に関する実践能力や研究能力が育成される。修了後は、看護職の専門職性を高めケアの質向上に貢献することや臨地および教育研究機関において、看護者の育成に携わるとともに実践的研究を行うことが期待される。

修了後期待される能力

産業看護に関する高度な専門的知識、技術を有する実践者であるとともに、様々な事業場で働く人々の健康を支援するための環境調整能力、協働連携等の調整能力、研究活動を行う能力が育成される。修了後は事業場を中心として、産業看護に係る実践・研究に携わるとともに看護職等の教育・指導にあたること、教育研究機関において看護者の育成に携わるとともに実践的研究を行うことが期待される。

修士論文コース	
看護学実践分野(母子支援看護学)	

修士論文コース	
看護学実践分野(急性看護学)	

履修モデル			単位			
			1年		2年	
			前期	後期	前期	後期
履修科目	共通必修科目	看護理論	2			
		看護研究特論	2			
		看護倫理	2			
	共通選択科目	看護管理学特論		2		
		看護研究演習		2		
		総合英語演習		2		
	専門科目	母子支援看護学特論Ⅰ (基礎となる理論)	2			
		母子支援看護学特論Ⅱ (小児看護学対象論、保健・福祉)	2			
		母子支援看護学特論Ⅲ (リプロダクティブヘルス)	2			
		母子支援看護学演習Ⅰ (研究方法)	2			
母子支援看護学演習Ⅱ (小児看護学支援論)		1				
母子支援看護学演習Ⅲ (母性看護学支援論)		1				
特別研究Ⅰ		2				
特別研究Ⅱ			3			
計			24	6		
合計			30			

履修モデル			単位			
			1年		2年	
			前期	後期	前期	後期
履修科目	共通必修科目	看護理論	2			
		看護研究特論	2			
		看護倫理	2			
	共通選択科目	看護教育学特論		2		
		コンサルテーション論		2		
		看護管理学特論		2		
	専門科目	急性看護学特論Ⅰ (危機理論)	2			
		急性看護学特論Ⅱ (フィジカルアセスメント)	2			
		急性看護学特論Ⅲ (代謝病態生理と治療管理)		2		
		急性看護学特論Ⅳ (援助関係論、家族援助論)		2		
急性看護学演習Ⅰ (看護援助論・倫理的調整)		2				
特別研究Ⅰ			2			
特別研究Ⅱ				3		
特別研究Ⅲ				3		
計			24	6		
合計			30			

修了後期待される能力

母子看護に関する高度な専門知識、技術を有する実践者であると共に、地域および臨床で母子看護に従事するさまざまな専門職者間の調整を行う能力、臨地において研究活動を行う能力が育成される。修了後は、保健・医療機関を中心に母子看護に係る実践・研究に携わるとともに看護職等の教育・指導に当たることが期待される。あるいは、教育研究機関において看護職者の育成に携わるとともに実践的研究を行うことが期待される。

修了後期待される能力

看護の対象を総合的に理解し、支援するための基盤となる理論や方法論に関し科学的に考究することにより、急性看護学が求める高い専門知識と技術を展開できる実践者となるための基盤や研究能力が育成される。
修了後は、臨地および教育研究機関において看護職の育成に携わるとともに実践的研究を行うことが期待される。

修士論文コース
看護学実践分野(慢性看護学)

履修モデル			単位			
			1年		2年	
			前期	後期	前期	後期
履修科目	共通必修科目	看護理論	2			
		看護研究特論	2			
		看護倫理	2			
	共通選択科目	看護教育学特論	2			
		コンサルテーション論		2		
		看護管理学特論		2		
		看護研究演習		2		
	専門科目	慢性看護学特論Ⅰ (対象論)	2			
		慢性看護学特論Ⅱ (社会資源と環境調整)	2			
		慢性看護学演習Ⅰ (慢性病の人のアセスメント)		2		
慢性看護学演習Ⅱ (支援技術)			2			
特別研究Ⅰ			2			
特別研究Ⅱ				3		
特別研究Ⅲ					3	
計			24	6		
合計			30			

修了後期待される能力

慢性看護に関する高度な専門知識、技術を有する実践者であるとともに、セルフマネジメント・スキルの獲得を目指した自己管理教育の実践能力、保健医療福祉の専門職者と連携・協働ができる能力、さらに研究活動を行う能力が育成される。
修了後は、慢性期看護にかかわる保健・福祉・医療機関および教育・研究機関において、看護者の育成に携わるとともに実践的研究を行うことが期待される。

修士論文コース
看護学実践分野(老年看護学)

履修モデル			単位			
			1年		2年	
			前期	後期	前期	後期
履修科目	共通必修科目	看護理論	2			
		看護研究特論	2			
		看護倫理	2			
	共通選択科目	看護教育学特論	2			
		コンサルテーション論		2		
		国際看護学特論		1		
		看護研究演習		2		
	専門科目	看護政策論		1		
		老年看護学特論Ⅰ (老年看護学の専門性)	2			
		老年看護学特論Ⅱ (老年看護学の実践)		2		
老年看護学演習Ⅰ (高齢者への看護介入)			2			
老年看護学演習Ⅱ (老年看護学の研究方法)			2			
特別研究Ⅰ		2				
特別研究Ⅱ			3			
特別研究Ⅲ				3		
計			24	6		
合計			30			

修了後期待される能力

老年看護に関する高度な専門知識、技術を有する実践者であるとともに、高齢者の生活を支える多職種の連携・協働をふまえた調整能力、研究活動を行う能力が育成される。
修了後は、老年看護に係る保健・福祉・医療機関および教育・研究機関において、看護者の育成に携わるとともに実践的研究を行うことが期待される。

修士論文コース
看護学実践分野(精神看護学)

専門看護師コース(急性・重症患者看護)
実践看護学領域(急性看護学)

履修モデル			単位			
			1年		2年	
			前期	後期	前期	後期
履修科目	共通必修科目	看護理論	2			
		看護研究特論	2			
		看護倫理	2			
	共通選択科目	コンサルテーション論		2		
		総合英語演習		2		
		看護管理学特論		2		
		看護研究演習		2		
	専門科目	精神看護学特論Ⅰ (基礎的理論)	2			
		精神看護学特論Ⅱ (歴史、精神保健論)		2		
		精神看護学演習Ⅰ (援助技術)	2			
精神看護学演習Ⅱ (研究方法)			2			
特別研究Ⅰ			2			
特別研究Ⅱ				3		
特別研究Ⅲ					3	
計			24	6		
合計			30			

修了後期待される能力

対象者の人権を擁護し、卓越した知識と技術を有する看護実践能力に加え、研究活動を行う能力を体得しなければならない。研究テーマは問題意識が明確であり、看護学の目的に照らして学術的あるいは社会的にみて価値あるものになっている必要がある。研究テーマの新規性、独創性、有用性のいずれかが認められるためには、十分な文献や研究動向の調査を行い、自分の研究の意義や重要度と他研究との関連性や相違を理解することが重要である。修了後は看護・医療・福祉分野で実践・研究に携わるとともに、看護職等の教育、実践的指導にあたることが期待される。

履修モデル			単位			
			1年		2年	
			前期	後期	前期	後期
履修科目	共通必修科目	看護理論	2			
		看護研究特論	2			
		看護倫理	2			
	共通選択科目	コンサルテーション論		2		
		看護管理学特論		2		
	専門科目	急性看護学特論Ⅰ (危機理論)	2			
		急性看護学特論Ⅱ (フィジカルアセスメント)		2		
		急性看護学特論Ⅲ (代謝病態生理と治療管理)			2	
		急性看護学特論Ⅳ (援助関係論・家族援助論)			2	
		急性看護学演習Ⅰ (看護援助論・倫理的調整)	2			
急性看護学演習Ⅱ (安楽・緩和ケア援助論)			2			
急性看護学実習					6	
課題研究Ⅰ					1	
課題研究Ⅱ				1		
計			22	8		
合計			30			

修了後期待される能力

急性・重症患者看護に関する専門知識を基盤に卓越した看護実践能力、特に生命の危機的状況にある対象者を総合的にとらえ、患者・家族中心の治療環境を調整する能力、看護実践の場における研究活動を行う能力が育成される。修了後は、医療機関における看護実践、教育、研究に携わると共に、チーム医療の中で多職種との連携・協働を促進し、コンサルテーション、倫理的調整を図る役割を担うことが期待される。